



龍門滝



広報

かじき

人口・世帯の動き

(平成7年11月1日現在)

総人口23,539人(29)	出生 15人
男 10,981人(9)	死亡 15人
女 12,558人(20)	転入 129人
世帯数 8,715 (40)	転出 100人

●()内は前月との比較●

題字 宇都宮町長

魂よ安らかに

——黙して語らず、ひっそり眠り続けた半世紀。その魂が戦後五十年にして、初めて人の情けに目覚めた。



墓碑由来記

昭和二十年十月末より十二月初めに南方諸地域、中国大陸からの引揚口に近い木田新田地区海岸に、二陸した。不幸にも三百十九人(三百四十二人)は、失調およびマラリヤ等の病に罹り、またその殆どが十歳未満の子供達に罹らされているのは、厚生省及び国立療養所

錦江小学校裏の吉祥寺墓地の一角に眠る「魂」の一字を刻んだ無縁墓。今日、その魂の一字があざやかに浮かび上がり、絶えて久しかった肉親の呼びかけに泣いた。ここには九歳以下の子供が多く眠っているという。その

切ない慕情と感謝の聲が、澄み渡る秋空にこだましているように、人々の心の壁にしみた。母の匂いを、父の手のぬくもりを間近に感じて……
——お父さん、お母さん、今までさみしかったわ。今日は来てくれてありがとう。

50年ぶりの再会に遺族の悲しみもあらたに……

平成7年

11

月号

今月のページ

☆議会報告・6年度決算……2～4☆かじきの戦後史……5～6☆まちの話題……7～9☆アンの目……10☆棕鳩十・竜門句会……11☆お知らせ……12

議会報告〔第三回定例会〕

平成六年度

決算を認定！

第三回町議会定例会は、九月十二日から十月九日まで
の二十八日間の会期で開催され、平成六年度一般会計、
簡易水道事業特別会計、地域下水処理事業特別会計、水
道事業会計、国民健康保険特別会計、老人保健医療特別
会計、農林業労働者災害共済事業特別会計の決算の認定
など十三件の議案のほか、諮問、陳情、意見案などを審
議可決しました。

平成六年度一般会計決算

歳入 七十八億八千四百二十八万九千円

歳出 七十六億四千四百四十九万二千円

平成六年度の一般会計決算は、
歳入が七十八億八千四百二十八万
九千円、歳出が七十六億四千四百
四十九万二千円、その収支決算は
二億四千二百七十九万七千円の黒
字となりました。

〔自主財源〕

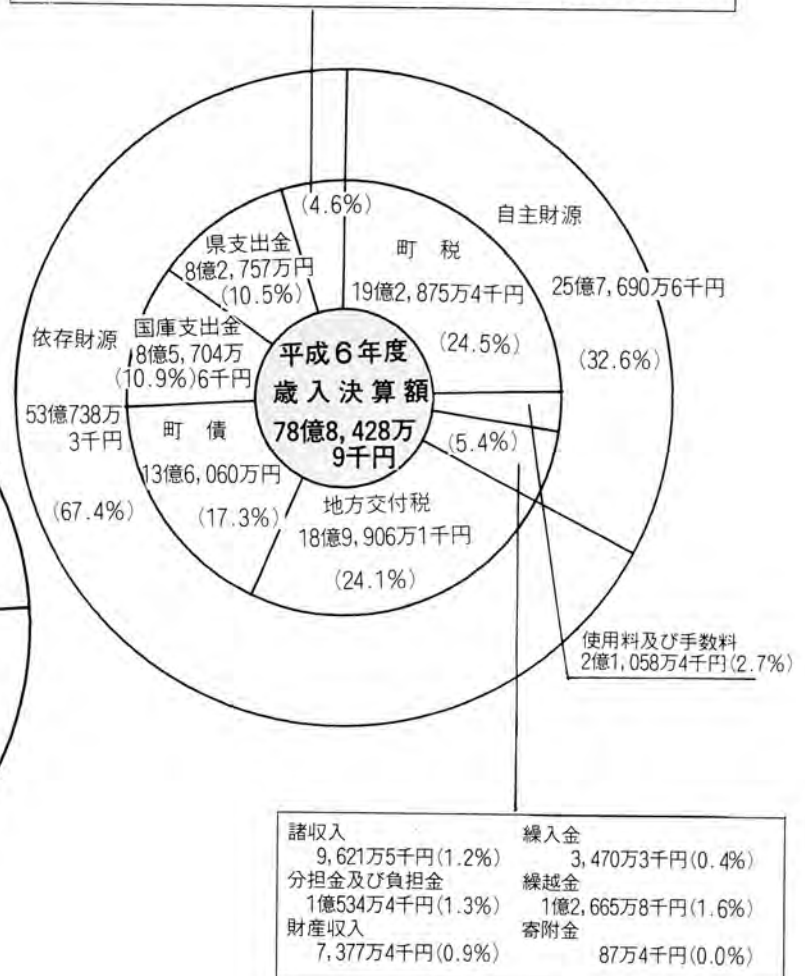
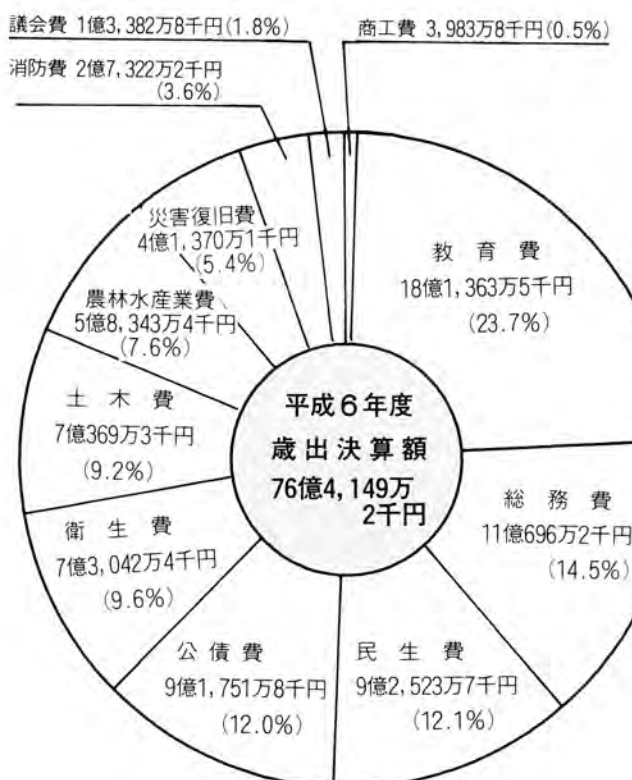
歳入のうち、町税などの自主財
源（自前で調達できるお金）は二
十五億七千六百九十万六千円で、
前年度に比べて九千六百三十一万
二千円の減となりました。

また、国や県の補助金等の依存
財源は、五十三億七千三百八十八万
三千円で、前年度に比べて十億二千
百七十八千円の増となりました。

一般会計歳入決算構成

地方譲与税	自動車取得税交付金
1億9,750万9千円(2.5%)	4,194万6千円(0.5%)
利子割交付金7,477万8千円(1.0%)	交通安全対策特別交付金
ゴルフ場利用税交付金	676万2千円(0.1%)
4,199万円(0.5%)	特別地方消費税交付金 12万1千円(0.0%)

一般会計目的別歳出決算構成



20億円

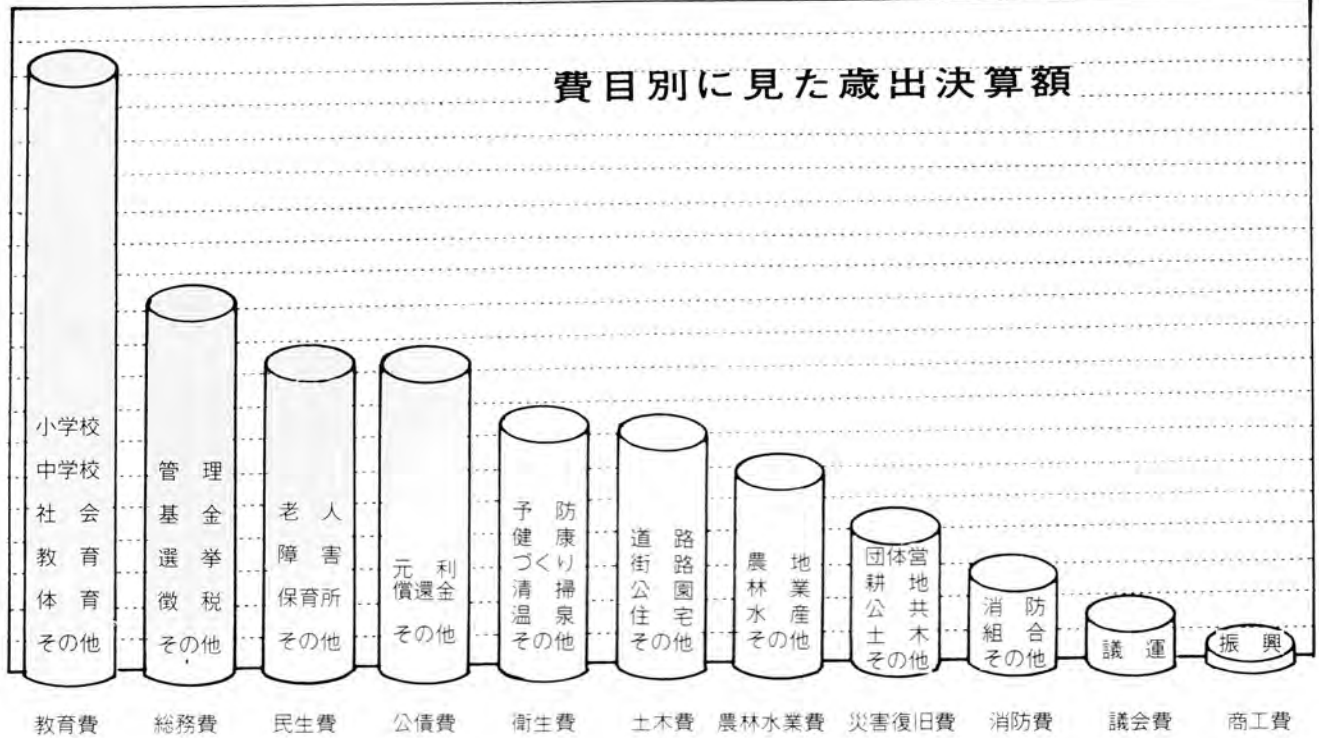
15億円

10億円

5億円

0

費目別に見た歳出決算額



会計別の歳出決算額

(単位：千円)

区分	本年度決算額	前年度決算額	比較
一般会計	7,641,492	6,785,816	855,676
簡易水道事業特別会計	150,582	75,781	74,801
地域下水処理事業特別会計	31,249	36,445	△ 5,196
国民健康保険特別会計	1,502,679	1,342,882	159,797
老人保健医療特別会計	2,240,350	2,039,320	201,030
農林業労働者災害共済事業特別会計	1,472	1,545	△ 73
総額	11,567,824	10,281,789	1,286,035

議会費	総務費	民生費	衛生費
5,692円	47,085円	39,355円	31,069円
農林水産費	商工費	土木費	消防費
24,816円	1,695円	29,932円	11,622円
教育費	災害復旧費	公債費	一般会計町民一人あたりに使われるお金
77,143円	17,597円	39,027円	325,032円

町民税	固定資産税	軽自動車税	町たばこ税	町税総額	町民1人あたりりが負担する税 (平成7.10.1現在) (推計人口)
36,584円	37,704円	1,071円	3,954円	82,040円	23,510人

平成六年度水道事業決算

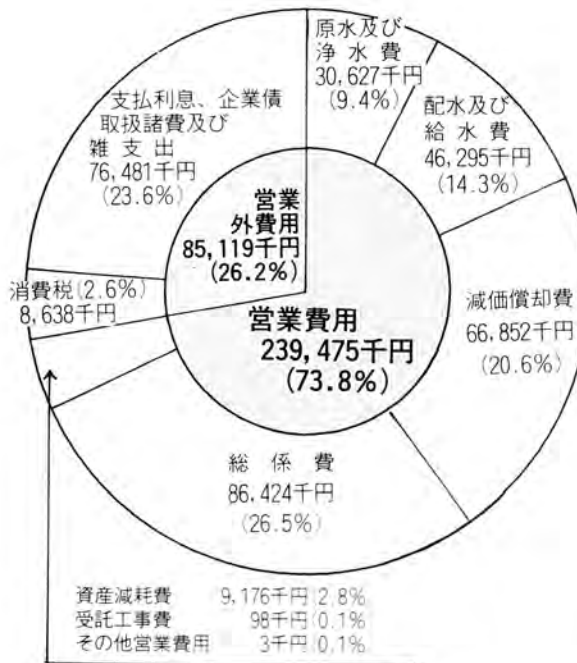
当年度純利益は
2189万円

水道事業会計の決算額は、水道事業収益が三億四千六百四十八万四千円（五年度・三億三千四百三十二万二千円）となつて、損益勘定では二千八百八十九万円（五年度・二千四百三十九万円）の当年度純利益を上げました。

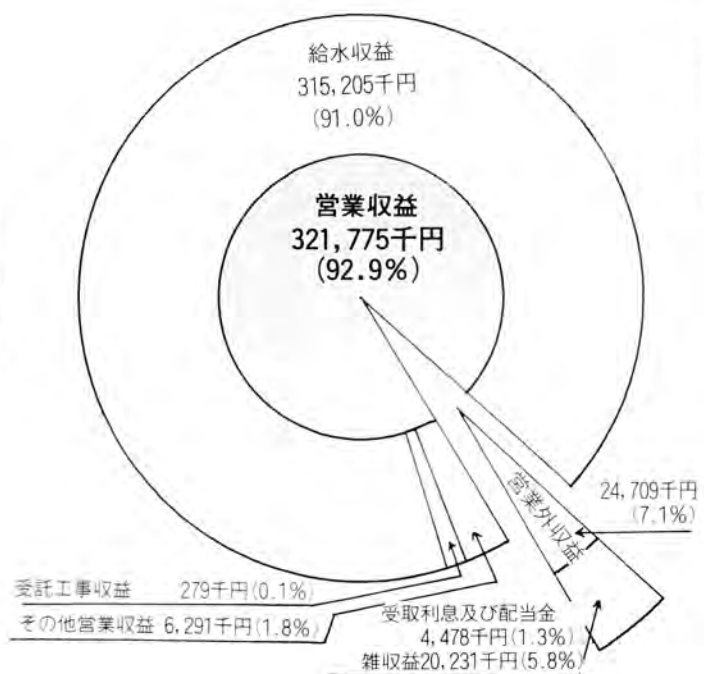
また、建設改良事業は、既設老朽管の敷設替導配水管三千二百七十五回、道路改良による敷設替え百二十九回、新規七百九十二回を実施。また、消火栓三基を設置しました。

水道事業会計

▼水道事業費用 3億2,459万4千円



▼水道事業収益 3億4,648万4千円



▼さて、今月も町名の由来を訪ねてみよう。

それでは、まず始良町からである。

▼今から約一、三〇〇年ほど前、始良町の付近はガマ（蒲）やススキが生い茂った寒村でした。人々はそのガマやススキなどを刈り、むしろ織りをして生活していました。このむしろ織りの仕事を監督する役人が「帖佐職」と呼ばれ、その職名が帖佐という村の名称になったもののようです。また、「始良」とは、女の顔が美しく手先のわざが器用であることを意味し、帖佐付近の郷名となったもののようです。（始良町のあらましから）

ちなみに、「始」の字を辞書でひもとくと、美しいという意味で、推測ではあるが、美しい娘がむしろを器用に織る所という意味にとってもいいのではないだろうか。

また、始良郡の起こり（日本地名大辞典）を調べてみると、昔は「始羅郡」とあり、和銅六年大隅国建国の際、日向国より

町名の由来

始良・国分・吉松



分割した四郡の一つとされているが、現在の始良郡とは直接の関係はないとのことである。しかし、始良町の町制施行は昭和30年であるから、始良郡という言い方はもっと昔からあったのだろうが、その起源については記録がまばらでない。

▼次に国分市であるが、「日本地名ルーツ辞典」によると、大隅国の国府・国分寺の所在地であったことに由来する。

▼吉松町である。郷土誌によると、島津義弘が一時仮住居した亀鶴城の左右に、亀丸と亀沢の地名があり、また西の方には竹田村があった。昔から「鶴亀松竹」は縁起のよいものとされているが、菅原道真の遺言に自分が宿った所には必ず松を植えよとあって、松はことに縁起のよいものとされている。そこでこの地を吉松と改め、鶴亀竹に加えるに、松をもつてして、この地が永く栄えることを願い、義弘が改名させたのである。

かじきの戦後史〈最終回〉

平和のありがたさを

しみじみとかみしめる

加治木港引揚死没者慰霊祭

加治木港引揚死没者慰霊祭が十月二十九日、沖繩からの六十三人を含む二百人余りの方たちが参列して、錦江小学校裏吉祥寺墓地の「魂」の文字が刻ま

れた石碑の前でしめやかに営まれた。

くしくもこの日は、終戦直後、南方からの引揚船第一便が加治木港に錨をおろした日。昭和二



小学生の追悼のことばに涙して……

十年のこの日を境に外地から続々と上陸したが、やっとの思いで母国の地を踏んだにもかかわらず、病氣や栄養失調のため、この加治木にあえなく没した人たちが多かった。その大半が沖繩の人たちで、この日、戦後五十年にして初めて再会したのである。

下猶篤男実行委員長や中村源照団長（沖繩からの慰霊団）らが次々に追悼のことばを述べたあと、小学校代表の迫村公志君（錦江小六年）が「わたしたちは戦争を知りませんが、引き揚げて来てから加治木で九歳以下の子供たちがたくさん死んだというのを聞いて、僕はとても悲しく思います。こんなことが二度と起こらないよう、平和な日本、平和な世界がくるように努力します」と結ぶと、「いい言葉もらい、さぞかし、ここに眠る兄弟も喜んでくれるでしょう」と慰霊団の人たちはのどを詰まらせた。

また、悲壮な沖繩決戦を舞台にした映画「ひめゆりの塔」の主題歌が流れる中、参列者が次々に御霊に献花。沖繩の遺族らは、五十年間の御無沙汰を陳謝するとともに、久しぶりに会えた喜びをかみしめていた。

その後、慰霊祭は錦江小学校体育館に舞台を移されたが、当時、錦江小学校に収容されてい

た沖繩の遺族らは、「この学校もすっかり変わってしまった。覚えてるのはあの大楠だけです」と終戦後、朝夕馴染んだ青々と茂る校舎正面にそびえる楠を指さす。感慨ひとしおの様子で、それからおもむろに、当時の面影をしのぶように校内をあちこち歩きまわっていた。

体育館では、コールのばらによる合唱や琉球舞踊が披露された後、沖繩県五人、加治木町四人による「加治木への引き揚げを語り聞かす会」があり、その悲痛な体験談にみんなしみじみと聞き入っていた。

沖繩からの遺族は、ダバオ会沖繩県支部の人たちで、加治木に着いたのは二十八日。一行は「さえずりの森」に上がり、高倉展望所から加治木市街地を見下ろし、引揚船の着いた所や吉祥寺墓地を確認したあと、引揚船や無縁墓のことを調査してきた元教諭の川崎兼孝さんから当時の状況などをくわしく説明を受け、その後、木田新田の通称「三の門」付近に設けられた引揚船の仮桟橋があった所や、当時の収容所だった国立南九州病院（加治木療養所）の遺体を埋葬した墓地などを訪れた。

町内の有志に呼び掛け、慰霊祭を実現させた川崎兼孝さんは「無事に終えてほっとしたのが実感です。加治木町民の皆様に

は本当に感謝しています。それにしても、町民の皆様も五十年前、加治木は空襲で焼け野が原でしたが、あの時何かしてあげられたらという悔恨の念がずっと胸の奥でくすぶっていたのでしうね」と自らの述懐を混ぜて語り、また、「沖繩の人に加治木を知ってもらいたい機会でした。これからも、親交を深くしていきたいものです。皆様のおかげで盛大な式典ができたことをとても喜んでいきます」とこれまでの労苦をものとせず、淡々とその喜びを語る。

体育館の体験談では、「戦争はいけない」「悲劇はもう見たくない」「自分ではどうしようもなく、子供が目の前で死んでいくのを見るのは辛すぎた」など々々……いろいろな談話が飛び出した。人間は肉体的苦痛より精神的打撃にダメージを受けやすいものである。一人ひとりの脳裏に刻まれた「五十年前の悲劇」は終生消えることはないだろうが、戦後初めての慰霊祭実現に、沖繩の人たちも少しは精神的な安らぎを覚えたことだろう。

また、参列した百五十人あまりの町内の方々も、その体験談に聞き入り、あらためて平和の「ありがたさ」をしみじみとかみしめていた。

町民の皆様への御礼

10月29日、秋の好天の下、沖縄からは、御遺族その他の六十名を越える方々、加治木町内からは、町行政当局、町議会、南九州病院、町子供会の各代表、百数十名を越える町民有志の方々のご参加を得て、吉祥寺墓地でしめやかに慰霊祭を挙行し、引き続き、錦江小学校で、『加治木への引き揚げ』を語り・聞く会を開催いたしました。

沖縄の仲村愛子、与那嶺貞様より、次のようなお礼状をいただいています。

どこへ上陸し、収容されたのか、戦後五十年を機に、加治木町の皆様方のお陰で、はっきりと自分の歩んだ過去の道を知ることができました。

町民挙げての慰霊祭、心から感謝申し上げます。傷ついたおさな心を、癒すゆとりもないままに大人になった五十年でした。

今日、いや先日は、本当に幸せな一日でした。あの世の恩師、友人と語り合えた感じがしてなりません。きっと、あの世の友人達も、今日の日を、私達とともに喜んでくれている事でしょう。加治木町民の皆様方、本当にありがとうございました。

外にも、沖縄の方々より多くのお礼状をいただいています。皆さんの方と同じように、町民の皆様への感謝の言葉を書いています。

沖縄の琉球新報は、10月28日より11月2日まで、連日、社会面で、今回の慰霊祭に関する記事を載せています。その中で、この度の慰霊祭が、加治木町民の暖かい心の結集により実現したことを評して、加治木の「町民を挙げた」戦後五十周年事業であったと書き、また、この事業を通じて、加治木の「住民の知らなかった歴史が、半世紀をへて、『平和』という形に変わり、住民の心に根つき始めた」とも書いています。

実行委員の口から申しますのは、いささか面はゆくも思いますが、この度の慰霊祭が成功したと云えますならば、それはいつに町民の皆様へ暖かいお気持ちがあり、そのお気持ちを、地区の公民館長、自治会長さん、そして班長さん方が良くおまとめくださいました成果だと感謝いたしております。また、「花」その他の心に響く歌を、ご披露くださいました「コールのぼら」の皆様にもお世話になりました。あわせて御礼申し上げます。

町内外より、多くの御寄付をいただいたことですので、会計報告も急がなければと考えておりますが、仮称「引揚者上陸地の碑」の建立が、木田新田地区の港湾計画の進捗との関係で、今すぐには出来難い事情にあります。今後の取り組みについての結論が出て、なんらかの形が整いますまで、今しばらくご容赦いただきたく存じます。

1995年11月10日

加治木港引揚死没者慰霊祭実行委員会

委員長	下 猶 篤男		
副委員長	松田 弘治	武田 信雄	
委 員	戎 倉男	岡山 秀樹	川 嵩 兼孝
	白尾 春樹	永井 和則	西迫 雅子
	林 敏克	松田 繁美	宮路 義和



切々とつづる体験談



琉球舞踊で御霊をなぐさめる

みなさん健康していますか

おおぜいが参加

わくわく健康まつり

「みんなで広げよう健康づくりの輪」をテーマに平成七年度「わくわく健康まつり」は十月二十九日、おおぜいの方が参加して福祉センターで開催されました。

表彰式では、昨年度医療機関にからなかった百四十二世帯を代表して弥勒の平田豊文さんと、健康づくり標語の入賞者十五人に宇都宮町長から表彰状が手渡されました。

その後、MBCタレントの瀬川洋一郎さんが「さつま狂句と鹿児島あれこれ」と題して、自分の体験をもとに健康づくりのノウハウを熱演しましたが、鹿児島弁の達人(?)のユーモアたっぷりの話に、会場は笑いの渦に包まれていました。

また、骨粗鬆症検診やフリーマーケット、おやつ作り体験、足の裏健康測定、介護用品、健康相談、歯科相談、食生活などの各コーナーにはおおぜいの人が詰めかけ、それぞれ相談員に興味深く質問していました。

全体を通して、みなさん日ごろから健康づくりには興味を持たれているようで、相談員の「健康は自分でしっかり管理しなければい

けませんよ」という苦言にも素直にうなずいていました。

みなさん、健康していますか。

〔健康づくり標語入選者〕

敬称略

☆最優秀賞

食べすぎは

体が言っている危険信号

鮫島沙織(柅城小六年)

健康は

心のゆとりと自己管理

案原浩平(加中一年)

健康審査

受けて安心ゆとりの生活

坂元みどり(原ノ門自治会)

☆優秀賞

高良理恵(錦江小六年)

詰めぐみ(加中二年)

市来信子(札立自治会)

☆入選

内村友香(竜門小三年)

酒匂 彩(加小六年)

内村知佳(永原小五年)

岩下博洋(加中一年)

山口あかり(加中三年)

西島卓夫(加中三年)

中山澄雄(田中自治会)

松元清二()

松元久美子()



各コーナーで熱心に聞き入る

みんな で健康体操

期待される「加音ホール」

「もっといい音を聞きたい……」

楽しい音楽会

東京カンマーアンサンブル公演

東京カンマーアンサンブル公演による「楽しい音楽会」が十月二十五日、福祉センターで開催されました。

東京カンマーアンサンブルは、十五人編成の室内弦楽合奏団。福祉センターに詰めかけた町内外五百三十人あまりのクラシックファンは、次々に演奏される九州の民謡やクラシックの名曲、デイズニメドレーなどに酔いしれ、会場はプロのかもしれない幻想的な音の調べに支配されていました。

これは、C-WAVEネットワークを利用して開催された、来年二月末完成予定の「加音ホール」キャンベーンコンサート。C-WAVEとは、Cはカルチャー(文化)、クリエーション(創造)、コミュニケーション(伝達)、WAVEは波の意味で、加治木町を初めとした九州内の十文化会館と提携し、国内外の一流舞台芸術団体を招き、旅費や宿泊費、コマリシヤル代などを分担し、少しでも負担を軽減して加盟市町を次から次へと波のように巡回して、地域

のみなさんに低料金で提供しようという画期的なシステム。加盟団体は、大分県三、宮崎県四、鹿児島



すばらしい音楽会でした

十月末現在、加音ホールの工事進捗率は六十%程度で、来年二月完成に向けて工事は急ピッチで進んでいます。みなさん、ご期待ください。

藍綬褒章を受章

中摩多美子さん

中摩多美子さん（竹下）が平成七年度秋の藍綬褒章を受章されました。

中摩さんは、昭和四十八年四月から現在までの二十二年七か月の間、人権擁護委員として、その啓発活動や人権思想の普及高揚に努められ、また昭和五十二年からは加治木人権擁護委員協議会委員や

監事として活躍。そのほか、鹿児島県人権擁護委員連合会理事及び同婦人問題委員会会長を歴任され、平成三年十月には人権擁護功勞として法務大臣表彰も受賞されています。

また、昭和五十五年から家事調停員としてもがんばっておられます。おめでとうございます。



中摩さん

堂免久子さんが受賞

援護事務功勞者

田中の堂免久子さんが十月二十七日、鹿児島県戦没者追悼特別式典の席上、援護事務功勞者として表彰されました。

堂免さんは、昭和五十四年から現在まで加治木町と溝辺町の戦没者遺族援護相談員として、これまでに十五年間、遺族の方々のあらゆる悩みや相談に応じるなど幅広い活躍が認められたものです。

また、本人も戦没者の遺族として、戦後子供を立派に育ててこられた関係で、ほかの遺族の方々の相談にはわがことのように親身にお世話をしてくれました。おめでとうございます。



堂免さん

統計功績者を表彰

鹿児島県統計協会

平成七年度の統計功績者に鹿児島県統計協会から表彰状が贈られ十月二十五日、宇都宮町長から松永トク子さんら三人に伝達されました。

おめでとうございます。
松永トク子さん▽田中みつるさん▽上村美津子さん▽加治木町



町長とともに

十人が受賞

社会福祉大会

社会福祉に貢献した人を表彰する始良伊佐地区社会福祉大会が十月二十六日、県社会福祉大会が十一月三日開催され、その席上、加治木町から次の方が永年勤続表彰を受賞されました。

被表彰者（敬称略）

〔始良伊佐地区〕

○民生委員・児童委員
宇都米雄▽杉田ミチ

○社会福祉事業施設
立山経弘▽曲田八千子▽久保蘭
信子▽吉村れい子

○福祉行政
福森徳昭

〔県〕

○社会福祉事業施設
池田枝美子▽田島テル子
○福祉団体等役職員
高田昌英

独居老人宅の電気配線診断サービス

九電 加治木営業所

九州電力加治木営業所は十月十二日、加治木町内独居老人宅三十件の電気配線診断サービスを行いました。

これは、九電加治木営業所が地域に貢献するため毎年実施している「ふれあい旬間」の一環。この日は、始良地区の電気工事組合の皆さんの協力を得て、新道の垣内不二さん宅を皮切りに独居老人宅を巡回し、室内配線の点検や電気がサの清掃、切れた蛍光灯の無料交換などをサービスしました。

垣内さんは「ありがたいことです」と九電職員らの作業を頼もしげに見守っていました。



カサのそうじも…

また、十月二十日は町観光協会と提携し、龍門滝の照明灯の清掃や滝周辺の草払いに汗を流しました。

多くの作品を展示

町美術展

第三十七回町美術展覧会が十一月十日から十三日までの四日間、福祉センターで開催されました。

会場に展示された作品はどれも力作ばかりで、訪れた人たちは口々に絶賛しきりでした。

町美展特別賞(敬称略)

〔町長賞〕

毛筆 西濱ともみ(柅城小六年)

絵画 柚木洋一(加中二年)

〔町議会賞〕

毛筆 山崎征太郎(加中三年)

彫塑 太田真人(竜門小一年)

〔町教育委員会賞〕

毛筆 竹添葉子(加中二年)

絵画 井上隆大(加治木小六年)

〔南日本新聞社賞〕

毛筆 浜崎麻未(加中一年)

絵画 五代瑞紀(加中三年)

〔町商工会長賞〕

毛筆 木佐貫知子(加治木小四年)

工作 向江将吾(永原小四年)

〔農協賞〕

毛筆 竹原重矢子(柅城小五年)

彫塑 淵脇拓也(加治木小五年)

〔南日本書道会賞〕

硬筆 今別府朋未(錦江小一年)

硬筆 瀬崎麻衣子(加治木小二年)

毛筆 隈原麻子(柅城小三年)

〔始良地区美育協会賞〕

絵画 叶 優作(加養護中一年)

絵画 川崎悠幸(永原小二年)

工作 大園由美(永原小三年)

〔郷土絵画・ロータリー賞〕

くわはた たかゆき 加治木幼

きもつき しょうた 竜門小一年

山崎 梓

加中三年

アンさんもお茶会に

町文化祭

第二十九回加治木町文化祭は十一月二日、三日の二日間、福祉センターで開催されました。

今年のテーマは、「聞こえます文化の息吹 感じますみんなのときめき」。

書道、盆栽、俳句、短歌、生花、編物、絵画などの展示会におおぜいの人が訪れ、

自分の好きな作品の所に立ち止まり、その出来ばえに感心しきり。また、アンさんもお母さんと一緒に茶会に顔を出し、日本文化の奥深さを体験していました。

二日目に行われた芸能発表も盛況で、昼夜二部で演じられた各流派の競演に酔いしれていました。



どのコーナーもいっぱい



みんなお化粧して大はしゃぎ

ワイイ海賊だぞー

ハロウィン祭りで国際交流

西洋のハロウィン祭りを親子で体験し、「小さいうちから外国人に親しもう」と十月二十二日、親と子の国際交流のつどいが町営体育館で開催されました。

「ハロウィン祭り」は西洋の悪霊払いの風習ですが、現在では子供たちのお祭りになり、日本でいえばさしずめ「子供の日」。子供たちは魔法使いや魔女、海賊、幽霊などに仮装して、怖がらせたり驚かせたりして、近所の家を回ってお菓子をもらうのです。

この日、参加した親子二百四十人は、C I R のアンさん(国際交

流員)やALT(英語指導助手)

の外国人ら十人と一緒に、さまざまなキャラクターにふん装して、風船リレーや一升ビンに赤い水を移すリレーなど、いろいろなゲームで愉快な一日を過ごしました。

特に元気がよかったのは、海賊の男の子たちで、「ワイイ海賊だぞー」と奇声をあげ、魔女やアリスにふん装した女の子の子の中を駆け回っていました。

子供たちは、外国人のお姉さんやお兄さんたちとの楽しいスキンシップで、小さい国際交流の芽を育てたことでしょう。

高峠チームが優勝

第十五回 福祉グラウンドゴルフ

成績(敬称略)

優勝…高峠チーム▽二位…須崎Bチーム▽三位…さおうAチーム

○優勝した高峠チームのメンバー

内村行男▽内村廣志▽内村スミ子▽内村實雄▽内村幸三▽市来原秀義

○ホールインワン賞

郡山貢▽川畑義巳▽内村スミ子▽内村實雄▽市来原敬子▽郡山四男▽安田幸代▽瀬戸口京子▽池田和子▽沼口ヨシエ



グラウンドゴルフは我々にまかせて

アンのEYE・アイ・

大好きなおかあさん！

——みなさん、おやっとさあ！

最近、急に寒くなって来ましたね！私は、わりと活発な10月を過ごしました。なぜかと言いますと、アイルランドから私の母とおばが、加治木に遊びにきたからです。“私は来日して以来、日本に来るように一所懸命両親をはげました結果、やっと遠い東アジアまで旅行することになって、とてもよかった”と思っています。母は私達が小さい時、仕事や子供の育児で忙しかったのであまり海外旅行をする機会がなかったのです。今回日本だけでなく、東南アジアやオーストラリアやニュージーランドを1カ月間ゆっくりと回って観光するのは非常に素晴らしいことと思います。

加治木で過ごした時間は今回の旅の中では最も印象的で、いつまでも一番忘れがたい思い出になったかもしれません。なぜかと言いますと、私の日本での生活をより良く理解でき、日本の文化や伝統の素晴らしさ、そして友達のお蔭で日本の人々の温かさを経験し、日本を非常に身近に考えられるようになったからです。どうして私が日本の事を好きなのか、どうしてここに住みたいのかをやっと理解してもらおうことができたと思っています。

彼女達が来日する前、私は大変楽しみにしていましたが、同時に心のどこかですごく心配していました。なぜならば、私は日本語を勉強してからもう5年が過ぎ、日本の文化、社会の背景になっている歴史観、世界観、宗教観が分かってきましたが、母達にとって日本は初めての旅だし、全く違う文化の中で生活する経験が浅かったため、“自文化中心あるいは自民族中心に物事をとらえ、つつい自分本位の「物差し」を当ててしまい、自分よがりの結論に走ってしまいがちになるのではないか”と思って相当悩みました。しかし、結局その心配はいりませんでした。母達は信じられないくらい抵抗なく、そして積極的に日本のあらゆる事を経験し、鹿児島に着いてから24時間内にお寿司、刺身そして「生ダコ」まで食べて、私はすごくびっくりしました。母の積極的な態度に“まけるわ”と思って、自分の母を見る目も変わって、すごく誇りを感じました。

鹿児島で過ごした10日間、友達のお蔭で普通の観光客に与えられない機会、珍しい経験が一杯出来てとてもありがたく思います。文化の日、福祉センターでお茶会に出席して、母が気になる生け花展覧会を見たり、友達の家を訪ねて子供と一緒に遊んだり、霧島の紅葉をみに連れていってもらったり、また他の日は焼物を作るまでの興味深い経験をさせてもらって、2人は加治木の人々の歓待にとっても感激していました。母達は日本語が全く分からず、「すみません」や「どうも」しか言えなかったのに十分交流が出来、本当に出会った人々とお互いに言おうとしていることが心から理解出来ました。

2人は何でも興味を持って（お米の稲刈り、すなむし、温泉、お祭り、七五三のお祝、どうして自動販売機があらゆる所にあるのか？どうして日本人女性が口を手のひらでかくすようにして話しをしているの？家庭のありかた、親子の関係、日本の果物、野菜など）感覚は私と少しちがって、その時まで考えたことのない話題をいろいろ提供され、24時間のQ&Aの形であつという間に10日間が過ぎました。そして、私の日本の生活を見て、私がとてもいい人に囲まれている事を分かってもらって、安心して帰りました。

私は初めて加治木に来た時、大人が分からなかったし、子供達は単に可愛らしい顔をする生徒達でした。それ以来子供だけでなく、多くの人々の顔や名前を覚えたり、町民の多くの人に会ったり、一緒に大笑いをしたりすることが出来ました。彼らはもはや、単なる日本体験というよそよそしい概念ではなく、私の友達になり、私の人生の一部となりました。それを母達に理解してもらってとても嬉しく思いました。そして、母達の訪問にとって私達はそれぞれの文化に固有なものをお互いに認識して、積極的に受け入れるべきだとあらためて認識しました。



桜島ふるさと温泉で……………

十鳩

出版界の元老

小宮山量平氏来館

日本児童文学関係出版界の大家、小宮山量平氏が、去る十月二十八日(土)午後二時、夫人同伴で、椋文学館においでになり、約二時間にわたり、十鳩十の人と文学について、多くの思い出やエピソードなど語られた。

小宮山氏は、長野県上田市出身、昭和二十二年理論社を興し、旺盛な出版活動を展開し、現在は同社顧問で、著作・講演活動等に多忙な生活でいらつしやる。年齢七十九歳、磨かれた知性と旺盛な生命力に驚嘆させられる。

たまたま、椋文学館では、かねてからの懸案であった『紀要』を編集発刊することとなり、論文・随筆等の原稿依頼の人選を行ない、約十名の方々にお願いを申した。

お願いの文書を送付したところ、折返し快諾の返事をいただいた。喜びこの上なしの感であった。折も折、十月二十五日には、筑紫野市で、親子読書二十周年記念行事『未来へのメッセージ』なるつどいがあり、この会の講師として、小宮山さんをお願いになることを情報で知っていたので、原稿依頼と同時に、筑紫の会がすまれたら、そのまま南下されて、ぜひ加治木においでください。と添え書きを申したら、これまた、ご都合をつけてくださった、十月二十八日午後、来館くださった次第。

十鳩十は、昭和五十七年度、芸術選奨文部大臣賞を受けた。この賞に評価された著作物は、理論社版『十鳩十の本』25巻とポプラ社版『十鳩十全集』26巻である。

小宮山氏は、「昭和時代落穂拾い」の著作を、昨年二月出版された。週刊上田新聞社発行。私は、この書を読みながら、感慨深いものがある。同時に、小宮山量平氏の、今回の来館を椋文学館の充実の大きな励ましとしたい。

(椋文学館長 榎園高雄)



夫人とともに



余生とは思はず言はず大根時く

恒吉 斗南

星へ啼きふくろふは灯を濡らしを

脇本 星浪

指染めてなほ葡萄食ふ反抗期

神村 洋子

昼寝の児掌より木の葉を夢し居り

岩田美知江

空狭きかくれ湯の里栗熟るる

高木 正男

虫すだく通夜の門燈ほの赤く

竹山 洋子

柩出づ音なく降り柿ひと葉

白尾 澄子

葛の花ほろほろ同胞われになし

川崎 黒兔

火口湖の産む伝説や星月夜

園田 千秋

社服脱ぐ定年そこに秋思ふ

加藤 白柳

敗荷や巫女を乗せたる太鼓橋

柳田 稔

パソコンを教え込まん子と子の帰省

萩之内幸子

春雲や標高しるき山の駅

古江 重美

句狂まつ

兼題「切つ」 神 牛尾先生 選

天 牛す手放つ 草切い鎌めも 暇を出つ

唱 楽ち思たい寂しかった (月野木寿峰)

地 切れん包丁 野菜あ組で 数珠撃つ

唱 不精とんせんじちよつち研がせば (満尾仙女)

人 親兄弟と 縁ぬ切つてん 世帯を持つ

唱 こげん若さが今でも欲しが (向江若葉)

アンのワンポイント英会話



冗談だよ!

Just kidding!
ジャースキリン

私は人を笑わせることが大好きです。特に、まじめな話しをして、最後に「冗談だよ」と笑わせることは面白いですね。そこで英語で「冗談だよ」と言いたい時は「ちょっとだけ」の意味の「Just」と「からかっている」という意味の「kidding」を合わせて、Just kidding と言った方がいいです!!!

鉄道沿線の立木の管理を！

九州旅客鉄道株式会社鹿児島保線区

平成七年六月二十五日、JR日豊本線北保・大隅大川原間に於いて、鉄道沿線の立木が倒れて、それに列車が衝突して車掌が死亡、乗客二人が負傷するという事故がありました。

JR九州では、事故発生直後から鉄道沿線の倒木要注意箇所

の緊急総点検を実施し、早急に措置が必要な箇所を洗い出し、現在、伐木等の処理を行っているところですが、鉄道用地外につきましては、所有者の管理するところになりますので、所有者の皆さん、今回と同様な悲惨な事故が発生しないよう十分な管理をお願いします。



初冬のしらせ

桃木野坂の斜面に広がる
つわぶきの花（楠元正男さん所有林）



まつり

- 12月9日・10日
（毎年第2土日）
8:30～17:00
- 龍門司焼窯元
（小山田）



親子映画鑑賞会

（福祉センター）
お休みです。

（椋鳩十文学記念館自由の館）
クリスマス会（映画はお休み）



日時 12月17日（日）10時
催物 ●人形劇「大きなカブ」
●指遊び
（1時間程度）
主催 加治木町親子映画会
※無料ですので児童・生徒・親子
多数ご鑑賞ください。

御寄付

社会福祉協議会へ

香典返しのかわりに
御寄付をいただきまし
た。厚く御礼申し上げ
ますとともに、故人の
ごめい福をお祈りいた
します。（内は故人

下浜 竹之内藤子（夫正治八）
三万円

出生児 永岩 裕樹 博己 郁文館住宅 保護者 自治会
榎谷 大樹 秀樹 中央
平 宙史 裕一 長谷
池田 達郎 公二 西堀人上
田代栄利花 雅孝 岩原東
本中野佑喜 齊 齊 東吉原
富永 理美 齊 赤坂
堂免 弥生 謙作 上木田
福吉 美咲 修二 南堀入
浪瀬 千加 剛 春日園地
小牟田千乃 昌彦 今町
荷福 綾珠 修 岩原西
永田 実季 巧一 西堀人中
額川 万穂 隆 高井田
當房 陸 周三 南堀入
原口 功清 高弘 札立
桃山 紗早 則吉 日本山団地
内村 竜士 浩二 原ノ門
▽十月二十日までに住民台帳に記
載された分を掲載いたしました。

うぶ声



平成7年12月在宅医表

3	松本外科	外科・胃腸科 加治木町木田724 ☎63-1911
10	玉利医院	内科・皮膚科 加治木町本町118 ☎62-2328
17	加治木整形外科	整形外科・理学療法科 加治木町港町147-2 ☎62-3711
23	加治木温泉病院	内科 加治木町木田4714 ☎62-0001
24	松元医院	内科 溝辺町有川231 ☎59-2823
31	佐藤医院	内科・小児科 溝辺町有川327-2 ☎59-2607

※診療時間は午前9時から午後5時まで。（原則として）
※当日の往診ならびに緊急以外の受診は御遠慮ください。
日曜・祝日 歯科緊急診療 10時～15時 郡歯科医師会館
口腔保険センター (0995-58-4388・溝辺町空港近く)

十万円 南堀入 立元マツエ（夫義男七六）
五万円 岩原東 松元巖夫（父實八）
五万円 竹下 中摩暉也（姉登美八）
二万円 明神 本山タネ（夫虎男八）
十万円 今町 美坂幸治（母ハマ九）
五万円 柳田 市来フミ（夫政秋七）
二万円 毛上 大村秋男（母スナ八）
一万円 田中 今徳勝男（母ハル子七）
五万円 岩原西 松木利雄（母アサノ九）
三万円 岩原東 松元巖夫（父實八）
身障協会へ

記事訂正とおわび

4月号の記事中誤りがありまし
た。深くおわびし訂正します。

20頁「ご寄付」中

身体障害者福祉協議会へ
二万円→三万円
里ノ下 松尾ヨシ子（夫廣志七）

毎月15日は

防火の日